

5 月度土曜例会（2018 年 5 月 19 日） 於；福祉文化会館 202 号室

ゲスト：Mr.Norm Boniface (Australia)

テーマ：；“Advance Australia Where?”

オーストラリア第三の都市ブリスベンからお出でいただいたお馴染みのノームさんに来ていただきました。

ブリスベンをこよなく愛しておられ、運よく金曜日に来られる機会がありましたら、シテイー・ホール前に am10：00 にいらっしやれば、4 時間の市内をご案内いただけるようです。

オーストラリアの歩んできた歴史と現在、そして今後どのような方向へ進もうとしているのかについてお話しされました。



オーストラリア国歌は、“Advance Australia Fair”ですが、これにならって、本日のテーマは Advance Australia Where?としました。

オーストラリアの国章は、アカシアとカンガルー、エミューをあしらったものである。

オーストラリアの歴史がどのような道を辿って現在に至ったかをお話しして、今後どのような方向に行くか考えてみたいと思います。

私たちは、国章に使われているカンガルーやエミューを食べますし、コアラも伝統的にアボリジニの人たちは食べます。

世界の 25 種の毒蛇の内 21 種がいます。3000 種以上の蛇がいて、毎年 70 種が新しく見つかっています。386 種の哺乳類がいます（78 種が絶滅危惧種）。

828 種の鳥類がいて、内 50 種が絶滅危惧種です。

イースタン・ブラウン・スネイクは致死率 60%であり、2.2 人/年の死者が出ています。

オーストラリアの哺乳類は、単孔類、有袋目の哺乳動物、胎盤姓の哺乳類などに分かれる。

カモノハシ、カンガルー、コアラ、ウオンバット、marsupial "moles"、フクロアリクイなどの固有種がいる。

オオコウモリ、デインゴ、齧歯(げつし)動物などもいる。

他にも、ハリモグラやタスマニアン・デヴィルなどもいる。



また、多くのサイズや色を持つ鳥類も数多くいる。
可愛らしい鳥や面白い鳴き声の鳥が沢山いる。
ノームさんお気に入りのオウムは“*Cocky want a cracker; Cocky want a cup of tea.*”と鳴く。

クイーンズランドには 2,600km にも及ぶ珊瑚礁が広がっている。

オーストラリアはどこから来た？

アボリジニの人たちの”Dreaming Story of the Rainbow Serpant” がある。

地球の地殻プレートの進化を見ると次のようになります。

250,000,000 年前、パンゲア大陸が出来た。

200,000,000 年前、ローラシア大陸分離、さらにゴンドワナ大陸分離。

145,000,000 年前、ジュラ紀の頃、大陸の分離が進む。北米はローラシア大陸と近接していた。

65,000,000 年前、さらに分離が進んだ。南米が分離していった。

この後、オーストラリアは南極と分離していった。

オーストラリアの呼び方

世界で 6 番目に大きな国であり、最も小さな大陸であるオーストラリア。

1290 年、マルコ・ポーロが Terra Australis と呼ばれた大陸を Jave la Grande と呼んだ。

この後、Great Southern Land と呼ばれた。

1644 年、オランダの探検家アベル・タスマンが New Holland と呼んだ。

1770 年、クックが New South Wales と呼んだ。

1817 年、New South Wales 知事がオーストラリアという名前を推奨。

Oz, Down Under, Lucky Country, Wide Brown Land などとも呼ばれる。

オーストラリアの法的な状況

1901 年以来、イギリスのウェストミンスター・システムを範とした連邦議員内閣制及び立憲君主制の政治体制である。

女王が、選出された首相の推薦によりオーストラリア総督を指名する。

イギリス女王の継承は、1701 年の王位継承法で定められ、2015 年の王位継承法で改定された。

今晚、王位継承権のあるヘンリー王子の結婚式が行われる。

オーストラリア憲法

1901 年、連邦憲法が実施された。

44 の建議案が国民投票に諮られたが、8 件のみが同意を得られている。
連邦制であるが州の力がかなり強い。

オーストラリアの発見

およそ 65,000 年前に先住民がやって来て、250 のグループが国を横断した。
1640 年、ポルトガルの探検家が Terra Australis を発見したといわれる。
1770 年、キャプテン・クックが初上陸した。
1788 年、イギリスの流罪植民地となり、11 艘の船で 1330 人が送り込まれた。

先住民

アボリジニとトレス海峡諸島民の 2 系統があると考えられている。



600 部族、250 の文化ないし言語グループがあつて、ヨーロッパ人が来る前にはピーク時で百万人がいたとされる。

先住民の居住地域も現在は、沿岸地帯中心である。

遺伝子的に見ると、北部から来た 1000~3000 人の女性が先住民の源流のようである。

氷河期の終焉期は、今より水面が 150m 以上低く、トレス海峡を渡ってオーストラリアに来たと思われる。

初期のヨーロッパの探検家

1451 年、オランダ人が、Macassan と呼ばれる人たちがナマコを求めて来たと記録している。

ポルトガルの航海者が 1521-25 年頃来たようであるが、記録が残っていない。

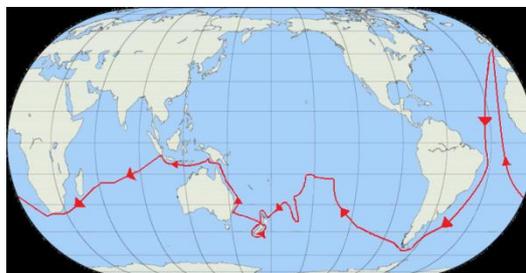
1606 年、オランダの航海者 Willem Janszoon がきた。

キャプテン・クックが世界を 3 回まわる航海を成し遂げている。

その中で、1770 年にシドニーに到着して、英国領有宣言を行った。

(シドニー湾にクックの船のレプリカが係留されている)

クックの第 1 回の航海



イギリス植民地

1788年1月26日、シドニーへの植民がはじまる。

この日は、Australia Day となっているが、アボリジニの一部の人々は Invasion Day と呼ぶ。

先住民とヨーロッパ人との相互作用の歴史は茨の道 (rocky road) であった。フロンティアの戦いでは2-6万人が殺害された。

「盗まれた世代」という言葉であらわされる親から引き離された子供たちが生じた。

1967年からの人口調査で市民権が認められるようになった。

誰が先住民？

アボリジニやトレス海峡諸島民の血を引く人たち。

自分たちのコミュニティーを持ち居住している人たち。

アボジリニの人たち (いくつかの写真) ;

部族的ないでたち
の人



David Gulpilil 俳優



CNN のアンカーマン



Jessica Mauboy

女優で歌手



David Unaipon

発明家で科学者



スポーツ分野では多くのアボリジニの人たちが活躍している。

1886年、アボリジニの人たちのクリケット・チームがイギリスへ行った。

アメリカン・フットボールの Jesse Williams。ボクサー。オリンピック

にでた Cathy Freeman。ウインブルドン優勝者 Evonne Goolagong。
2018年冬季オリンピックでは初めてアボリジニの人が出場。
2012年にはバレエダンサー Ella Havelka が誕生した。
政治分野；数多くはないが 1971 年以後 40 人（うち女性 16 人）

Saying Sorry

1975 年まで続けられた人種隔離政策は「盗まれた世代」を生んだ。
やっと、2008 年になって、これらの人々の”Sorry”と謝罪がなされた。
健康面、教育面、雇用面でのギャップをなくすという考え方を基本とする。
2015 年のアボリジニ投獄人はそうでない人の 13 倍で囚人の 27% を占める。

Recognition ?

オーストラリア先住民は人口の 2.8%（65 万人に過ぎない）
ヨーロッパ人が来る前の先住民に対する配慮や補償や取り決めはない。
将来はどうなるのだろうか？
適切な和解がありうるのだろうか？

オーストラリアの歴史

1868；最後の囚人がオーストラリアへ。1891；オーストラリア労働党結成
1895；いくつかの州で婦人投票権獲得。
1901 年までの初期移民；自由移民であり、1850 年代はゴールドラッシュ。
1901；6 州と 2 地域の連邦形成。「白豪主義」が取られた。
1902；婦人の選挙権と被選挙権獲得。
1904；世界初の労働党内閣。
1941；太平洋戦争勃発（1945 まで）
1942；ウェストミンスター採択法憲章によりイギリスからの分離の方向。



第二次大戦後は、イギリス、アイルランドを中心とした移民政策を取るが、実際には南欧・東欧・中近東・アジアが増加していき、白豪主義は撤回せざるを得なくなる。

1950 年代；冷戦時代とアメリカとの連携
1967；憲法改正（アボリジニ）94%が国民投票に参加し 91%が賛成。
1986；イギリスからの完全な分離。
1988－1992；土地権が認められた。

オーストラリアへの囚人移送

1788-1868 年まで 80 年間行われ、下層階級や政治犯を中心に、164,000 人が移送された。

イギリスやウェールズ；70% アイルランド；24% スコットランド 5%
7 年から 14 年の奴隷的な労働の後に解放された。

オーストラリアの銃問題

銃買い戻しの実施策で火器は破棄され、購入には厳しい法制限が取られた。
犯罪率は 2000 年以降、大幅に減少している。

1996 年以来 22 年間オーストラリアでは銃による大量殺人は起きていない。

移民問題の現在

現在のオーストラリア人口は 2500 万人であるが、27%が国外生まれである。
インドや中国からの移民が多く、それぞれ 2.8%、5.6%である。

2015-17 年は、シリア、イラクから特別枠で 12,000 人受け入れた。

オーストラリアの文化



27%が外国生まれ、49%が一方の親が外国生まれの人たちで形成される国。
食べ物やもてなし、祝い事、多様な景観、技術や経験に多様性があり、よ
そ者に対する忌避感が少ない。

観光（異国情緒あふれる場所やニッチな市場）、教育、ビジネスや研究・発
明のグローバルな連携がある。

コミュニティーの活力や適応性の大きさがある。

調査によれば、オーストラリア人の 80%の人が考え方が前向きであると答
えている。

社会のトレンド

出生率は 1.8。

結婚事情 2016 年；

55%がオーストラリア生まれ同志、32%が異なる国の生まれ、13%が他

国生まれ。

多くが結婚前に同居する。多くは、男は 32 歳、女性は 30 歳で結婚する。

同性婚は 2016 年 12 月 9 日に合法化された。

離婚 2016 年；

男は 46 歳、女は 43 歳が離婚年齢。

宗教

50%がキリスト教で、40%が無宗教ないしその他

政治

選挙は義務的なものであり、前回の連邦選挙の投票率は 91%。

政策的な関心事は、経済、雇用、教育、健康、高齢問題である。

経済

GDP は 2017 年；1.26 兆 A\$。

豊かな国ランクはスイスに次ぎ世界二位。（日本は九位）

サービス部門が経済を牽引しており、GDP の 61%を占め、79%の雇用を生み出している。

財政負債は GDP の 42%（日本は 235%）

安定しており、1991 年 7 月以来不況を経験していない。

ジニ係数は 0.32 レベルで安定している。

GDP:	\$1.69 trillion	(GDP (PPP) 2017)	(19th)
Export Value:	\$190.2 billion	(2016)	(27)
Import Value:	\$196.1 billion	(2016)	(21)
Labor Force:	12,420,090	(2014)	
Interest Rate:	2 %	(2018)	
Inflation Rate:	1.7 %	(2018)	
Unemployment Rate:	5.4 %	(2017 Nov.)	

輸出先；中国（29.6%）、日本（10.3%）、韓国（5.5%）、インド（4.5%）、
香港（4%）、アメリカ、ニュージーランド、台湾、・・・

主な輸出品；鉄鉱石、石炭、LPG/LNG、金、アルミナ、合成コランダム、
小麦、穀類、牛肉、羊毛、羊肉、山羊肉、米、綿花、機械
他にも教育分野で諸外国から学生を受入。

輸入先；中国（24.3%）、EU（19.3%）、アメリカ（11.5%）、日本（7%）
タイ（5.7%）

主な輸入品；車、原油、石油製品、IT製品、薬品、他

オーストラリアはどこへ向かうのか？

オーストラリアはアジアに位置し、太陽系第三惑星の Blue Planet 上にある。
フランクリン・ルーズベルトは” The only thing we have to fear is fear
itself.”とっています。

変化への恐怖を克服することが大事です。

世界の変化

気候、人口、社会の変化
イデオロギーの混乱や崩壊
発明、研究と技術
貿易と国際関係



気候変動は、オーストラリアにとっては大きな問題である。

海水温が上がると、海岸は浸食され、グレート・バリア・リーフの白色化が進み、サイクロンや旱魃が起こる。



熱波は洪水、森林火災が問題であり、暑い夏の記録が続いたり、森林火災の被害が多くなっている。

2018年3月の洪水

2017年3月の旱魃



高齢化は税収を減らし、高齢者ケアの負担を増加させる。

オーストラリアは65歳以上が15%。（日本は27%）

難民問題（自然災害や人為的なもの）

6400万人（日本の人口の1/2）が地球上の移動を余儀なくされている。

イデオロギーの混乱や崩壊

文化；協力 vs. 衝突

人種；白 vs. 黒 vs. 黄色

政治；右 vs. 左、自由主義 vs. 独裁主義

宗教；キリスト教 vs. イスラム教 vs. ヒンドゥー教

経済；成長か非成長 非正規雇用の増加を生む可能性ある。

研究とインフラストラクチャー

AI（人工頭脳）；アンドロイドやドローン

VR（仮想現実）；スポーツやレクリエーション分野

農学；遺伝子組み換え作物やクローン動物

生産と廃棄；リサイクル可能なものあるいは容易に使い捨て可能なもの。

効率的な移動システム；廃棄物の少ない電氣的自動制御乗り物

ブロックチェーン技術；ビット・コイン

ナカモト・サトシという正体不明の人物（個人であるかどうかも特定されていない）が提案したもの。

オーストラリアのエネルギー部門

石炭 75%、水力 10%、天然ガスやオイルシェール 7%、風力 6%、太陽エネルギー 3%、である。原子力発電はやっていない。



風力や太陽エネルギーの寄与を将来的に増やすべきである。

Snowy Mountains Scheme を拡大していくべきであると考えられている。

天然ガスの貯蔵量が多く、大阪ガスもこれに注目している。

Tesla-Neoen は南オーストラリアにソーラーや風力で得た電気を貯蔵するリチウムイオン蓄電池（100MW）を建設した。



26年間続いたオーストラリアの成長はいつ終りになるのか？

オーストラリアはどこに向かうのか？

オーストラリア 2050年プロジェクトにこれに対する提言が出されている。

これについての詳細は、インターネットで下記にアクセスしてみてください。

<https://www.science.org.au/support/analysis/reports/australia-2050-conversations-about-our-future>

銃規制の米豪の違いについて質問；

歴史的な銃に対する考え方の違い、買い取り制度、アメリカのガン・ロビイストの強さなどがあるのか？

高齢者問題やポックリ寺に関する質問；

尊厳死などに話が移りましたね。

投票率の高さについての質問；

オーストラリアはペナルティーがあるが、それ以上に政府を信用しておらず、自分たちの参画を考える文化がある。